

2022年1月

No. 49

書道教室 薬院 一凜
sho-do ICHIRIN

繼續は力なり



月刊
一凜



夢は美一ヨガヨ、
希望は高キガヨ、
夢も希望も捨てなければ
必ず近づリくる

刻ムガヨ、



目的は高キガヨ、そのための
一里塚ト一目標を定ムガヨ、
ナクそのために時を

刻ムガヨ、



月刊一凜 No.49〈2022年1月〉

《競書審査員》佐々木峯雲 《発行》書道教室 一凜 薬院 《小作品査定員・制作》野口昌芳(NS)



書道教室 薬院 一凜
sho-do ICHIRIN

〒810-0022 福岡市中央区薬院3-7-25 原ビル2F
TEL / 092-791-7251 FAX / 092-791-7786
<http://www.shodo-ichirin.com/>

墨を擦る

文=岡田 雄希

【四季と書と】

茶
季
書

篆

七歳(さんじゅ)、傘寿(八十歳)、米寿(八十八歳)と長寿を目指す人に、書の作品で贈るのもぴったりの言葉です。

解説/「酒池肉林」:紂王は、肉を天井から吊るし林に見立て、酒を溜めて池に見立て、その上で女性をばらしながら、ほいままにこれを飲み食いした。ここから度を過ぎた享楽の事を酒池肉林と呼ぶようになった。

日本書道協会「名言名句辞典」より引用、編集

伝説の王が残した言葉

「恭即壽」
きょうなればすなわちいのちながし

素直な心でいれば長生きできる、礼儀があつて正直であれば長生きする、といふ意味の言葉です。

周(紀元前二〇四六~二五六)の武王は、中国では夏の禹王、殷の湯王、父の文王と並んで「聖王」として崇められる、伝説的な王です。

その高い徳を慕つて集まつた諸侯の力を借り、残虐な振る舞いの多かつた

私も虎番ではなかつたが、福岡市に不案内な友好紙の記者の案内役として英敏さんの取材に付き合つた。おかげで英敏さんの楽しい話を聞くことができ、寒さも忘れて楽しめる取材となつた。

わずか2日後には新庄選手が引退を撤回する記者会見を開き事態は終息した。新庄選手のお母さんが「お父さんが危篤だ」と伝えたことで、新庄選手は「僕のせいで親父の具合が悪くなつた。もう一度、野球をしている姿を見せたい」と涙を流しながら会見に臨んだ。

おかだ・ゆうき/
虎番記者が帰阪し地元に残つた私は一部週刊誌の記者たちと英敏さんのコメントを取りに実家へ行った。英敏さんは危篤どころか新庄選手の現役続行を喜び、中洲の居酒屋で祝杯を挙げていた。「息子に思ひとどまらせるために仮病だった。飲み歩くのが私の病気」とオチまでつけてくれて、英敏さんは最後までサービス精神満点の人だった。

取材当初、関西人中心の虎番記者たちが「ここに、新庄は帰つてしませんわ」と私に解説してくれたことがあった。それはなぜか? 新庄が乗つっていたランボルギーニチャータという大型WDが実家の前の道路幅より大きいからというのが理由だった。当時の私は「さすがに笑いの王国関西は記者もおもろい」と妙に感心していたことを思い出す。

人物だった。寒風が吹く中、肩をすぼめる虎番記者を家に招き入れた英敏さんはスーパースター新庄をどうやって育てたかをとくとくと解説してくれた。「昔から深くものを考えないけどね」や「他人の話を聞くだけは聞け。ただし、役立つことだけ覚えろ」と最近の新庄ビッグボス語録に通じる話をしてくれた。

ところが、サービス精神満点の新庄監督を見ても分かるように英敏さんも超がつくほど的好

とするのだが英敏さんも戸惑い気味に「何の連絡もないぞ!」と最初は取り付く島もない状態だった。

ところが、サービス精神満点の新庄

ビッグボス、 1995年の 思い出

おかだ・ゆうき/
昭和33年3月20日、

北九州市生まれ。平成

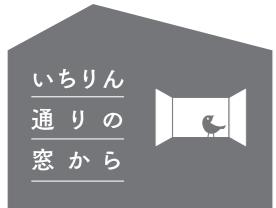
23年12月に一凜に入

門。趣味は自転車と

酒を飲むこと。酒は誘

われたら断らないが

モットー。



《譲る勇気》

私はバスで通勤しています。教室に来る際はできるだけ前方の一人掛け椅子に座ります。私が利用している時間帯のバスは、薬院大通りで降りる乗客は多くありません。ですから、車内が混むことを想定して降り易い前方の席に座るようにしています。

ある朝のこと、桜坂の一つ手前(馬屋谷)のバス停から年配のご婦人二人が乗車してきました。車内は満席に近く、あいにく前方のひと席しか空いていません。私の前の椅子に座っていた女子中学生がその事に気付き、間髪入れず席を立ち、座れなかつたご婦人に席を譲ろうとしました。しかし、私の前の席は桜坂まで空席のままでした。譲った手前席に戻れない状況の女子中学生と、座ることを遠慮して立っているご婦人、似たような光景にバスの中で時折遭遇します。

私はバスの中では、殆ど目を瞑ってradioを聴きながら居眠りをしています。時に気配を感じて目を開けると、年配の方が傍に立っています。席を譲るタイミングを逸した時は、言いようのない後ろめたさを感じます。席を譲った経験のある方ならお分かりかと思いますが、席を譲るという行為は勇気がいるものなのです。

前述の女子中学生の勇気ある行動に対して、譲られたご婦人は「次の桜坂で連れは降りる。連れの席に座るからいいわよ。」とても言って遠慮したのだと想像できます。所在無く立っている女子中学生を見て、「譲る勇気のなかつた私に比べ君の迷いの行動は素晴らしい」と、「これからも譲る勇気と優しさを持ち続けて欲しい。」と言って褒めてあげたいと思いました。そしてご婦人には「今後譲ったら素直に受けれる優しさと感謝の気持ちを持ちましょう。」とアドバイスしてあげた気持ちになりました。

バスの中だけでなく色々な場面で、さりげなく“譲る勇気”を常に持ち合わせた人間にならねばと再認識させられた出来事でした。

書道教室一凜 薬院
佐々木峯雲



COVER ART
Miki Furukawa

1月分課題

1月分課題は2月10日(木)が提出期限予定です。
諦めることなく、コツコツと努力することが何より大切です。
みなさん、今月も頑張りましょう。

硬筆

春の七草は、芥、薜、御形、繁縷、仏の座、菘、蘿蔓。秋の七草は見て楽しむのに対し、春の七草は味わつて樂しむもの。月七日の七草粥は長生きを願つて食べる風習だ。

何となく今年はよい事あるごとし
元日の朝晴れて風なし

この宮の森の木下に子供らとあそぶ
春日になりにけせしも

初段以上

かな

うめくす
えりのね
せきのね
うめくす
えりのね
せきのね

六段以上

漢字

月 鳥 風 花

六段以上（篆書）

月 鳥 花 風

初段～五段（隸書）

神社仮閣の前に、犬が二匹控えている。二匹は口を大きく開け、一匹は閉じている。阿(あ)は口を開いて物事のはじまり、吽(うん)は口を閉じて物事の終りを表す。

10級～1級

赤いぼうしやゆきの下
野佛の赤いぼうしやゆきの下

10級～1級

清 春 美 物

10級～1級（楷書）

- 配布された手本に間違えがないか、
上記課題一覧を必ず確認してください。

●硬筆の添削に関して

初段以上の方の添削は毎月1回限りとします。
十分練習を重ねて仕上げた作品を添削依頼してください。

今月の硬筆課題は初段以上も楷書につき
六段以上の方の添削は不要です。

一凜チャリティーカレンダー2022は こうして製作しました。

今回もチャリティーへのご協力
ありがとうございました!



工程①

2016年版から製作を始めた一凜のオリジナルカレンダーですが、まずはテーマを決めます。

これは野口氏の担当で、毎回思案を巡らせてもらっています。2016年版は「童謡」、'18年版は「擬音語・擬態語」、'17年版は「童話」、'20年版は「鳥」がテーマでした。

※'21年版は「花言葉」、'19年版は「つづく」、'22年版は「鳥」がテーマです。

毎回9月下旬から10月上旬あたりに野口氏よりテーマの打診があり、カレンダーの製作がスタートします。

今回のテーマは「俳句」。野口氏が俳句集中の中から各月のイメージに合った俳句の選定を行い、同時に各月のイメージに合ったイラストも考えます。気が付かれた方は少ないと思いますが、全てのイラストは半円のみを組み合わせてデザインされています。毎回野口氏のデザインの発想と拘りには感心させられます。

句集の中から各月のイメージに合った俳句の選定を行い、同時に各月のイメージに合ったイラストも考えます。気が付かれた方は少ないと思いますが、全てのイラストは半円のみを組み合わせてデザインされています。毎回野口氏のデザインの発想と拘りには感心させられます。

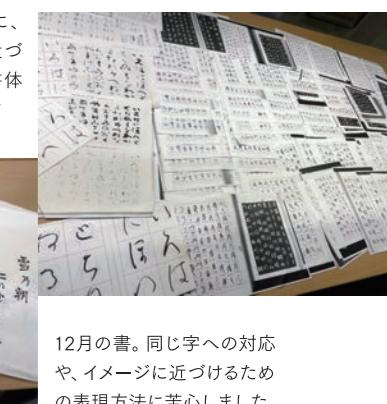
工程②

各月の俳句が決まると野口氏から各月毎の書体に関するイメージの指示があり、それに沿って私が書の作成に取り掛かります。各月の書のイメージは次の通り。

| | |
|-----|------------------------------|
| 1月 | 正月の子供に成りてみたき哉 |
| 2月 | 山茶花の花や葉の上に散り映えり |
| 3月 | 寒さを感じるかすれのイメージ |
| 4月 | 古錦をみなの道ぞいくしき 可愛らしい女児のイメージ |
| 5月 | 桜が舞うイメージ |
| 6月 | 紫陽花や昨日の誠今日の嘘 |
| 7月 | 雨を感じるにじみのイメージ |
| 8月 | 波打つ感じの荒々しいイメージ |
| 9月 | 鳥が悠々と遊ぶイメージ |
| 10月 | 雨を感じるにじみのイメージ |
| 11月 | 素朴なイメージ |
| 12月 | 鹿が楽しく憩うイメージ |

8月の花火のイラスト別案。書はもちろん、メインのスイカを邪魔しないもの、そして各月の前後の相性や、カレンダー全体の統一感を意識して制作していきます

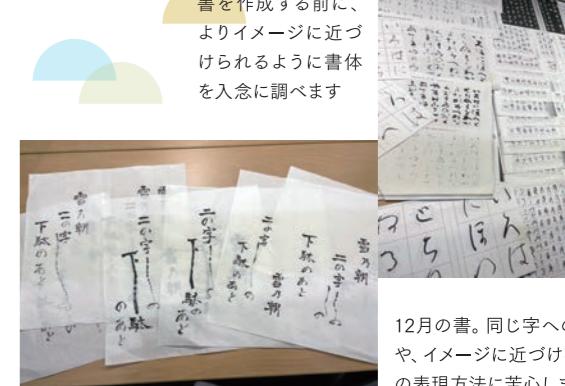
工程③



12月の書。同じ字への対応や、イメージに近づけるための表現方法に苦心しました

です。このようにして各月毎に5から8パターン程度仕上げました。

この後は野口氏の作業に移ります。私の書いた文の中の一つを選んでいます。パズルのような作業です。見つけ出し、切り取っては組み合わせていきます。パズルのような作業です。地道な作業を12か月分行います。並行して半円を組み合わせたイラストも作るのですから、大変な労力です。



書の作成に取り掛かる前に、各月に使われている漢字を多様な書体が掲載されている「新書源」で一つ一つ調べ、該当する漢字をコピーします。今回は合計63枚のコピーを準備し、かなの書体も5パターンほど準備しました。各月のイメージに合った書体が決まったところで、筆の赴くままに書いていきます。今回特に苦労したのは12月の俳句です。寒い朝のまばゆく光る雪景色に延々と続く二の字を想像し、「硬さ」と「力強さ」のイメージを隸書風に表現するのに苦心しました。10月の葡萄も同じような形の漢字だけにどの様に変化をつけるか悩みました。

私のお気に入り作品は7月と9月になります。



最終チェックの様子